



“学びの森”だより

師走を迎えて

今年も、早や師走の候となりました。毎年毎年、気忙しく感じられるこの時期です。

大相撲九州場所が終わり、1週間が経ちました。数年前から、〇〇女子という言葉が使われ始め、ついに、相撲女子、スー女なるものがお目見えするようになりました。自称、元祖スー女としては、喜ばしい限りです。

先場所、テレビの前で観戦していた時、引退したばかりの嘉風関（中村親方）が解説者として初めてカメラの前で話す場面に出会いました。「髷は切りたくないです。生まれ変わっても力士になりたいです。」の言葉に心が動きました。幕内最年長者として、長きにわたり土俵に立ち続け、心ならずも引退の運びとなった今、未練という言葉では、到底表現しきれない忸怩たる思いがあったのでしょうか。稀勢の里関（荒磯親方）の引退会見の時の「土俵人生において、一片の後悔もありません」とは、好対照となる言葉です。

各界とは、寡黙であることがよしとされている世界なののでしょうか。喜びの表情をぐっと抑え、笑顔一つ見せずに勝利インタビューに応じる力士の姿を目にする度に、他のスポーツ界との大きな違いを感じます。ガッツポーズなど許されるはずもないほど、品格を重んじる相撲界。今場所は、品格に反する行為に対し、多くの批判や意見がありました。そんな中で、ひたすら努力を重ね、いざその場所を去るという場面に立った時に、臆することなく心の内を吐露した中村親方に、何とも言えぬ人としての魅力と共に、一つの美学を感じました。

相撲道だけではなくありません。教師だって同じです。毎年、何十人もの先生方が、教育界を後にしてきました。子供たちと共に歩んできた日々との決別は、それぞれに感慨深く、決して容易く語り尽くせるものではないでしょう。

学校訪問の折に、ベテランの先生の、まるでいぶし銀のような味わい深い授業に出会うことができました。子供たちと絶妙な間合いを保ちながらの呼吸の合ったやりとり。極力教師の出番は抑えられ、子供たち同士で解決の道筋を探そうとする授業を試みる先生の姿。職人技といえるものでした。魅力ある授業に出合うたびに、もっと多くの先生方に授業を見てもらいたいと思わずにはいられなくなるのです。師走のみぎり、ただでさえ忙しい毎日ですが、せめて空き時間に、隣の学級の授業をのぞいてみませんか？

今日、12月2日は、七十二候の一つ、「橘始黄～たちばな はじめてきばむ」に当たる頃。柑橘類である橘の実が黄色くなっていく頃という意味だそうです。冬の冴えわたった青い空に、橘の黄色が映える光景が浮かんでくるようです。

年の瀬までには、まだ少し時間はありますが、先生方、良いお年をお迎えください。

文責：照井 久美子



市初任者研修会（西小）

11/7（木）今年度新規採用教職員7名が参加し、「授業案の読み方と参観の仕方について」の研修後、同校初任者の阿部央奈先生と、下山千裕先生の授業を参観しました。事後研修会では、授業中の子供の発言、表情などを時系列にまとめることで、手立てや、子供の深い学びについて共有しました。＜感想から一部紹介します。＞

☆事後研修では、初任者同士で話をしながら授業を振り返ることで、自分だけでは気づくことのできなかった発見や考えを知ることができた。対話の大切さを実感した。

☆「わくわく」するような発問をもっと意図的に組み込んでいくべきと学んだ。また、「今日はこれが出るようになるんだ」ということが明確になっていることで子供たちがどんどん次の行動に進んでいく、前向きに取り組んでいくことができる、ということを改めて感じた。

☆講話や研修では、自分が何に注目しているかを考えながら資料を読むことの大切さを学んだ。また、3月にどんな姿になりたいか、子供はどうなっていてほしいのかを考え、それに合った支援をしていきたい。

☆（授業者として）「笑顔」「子供の反応」など、褒めていただいた部分は自分の強みとし、ご指導いただいた点は前向きに受け止めて、さらに自分を高めていきたいです。

研修中、子供の表情や反応を見つめる姿や、頷きながら真剣に聴く姿勢に頼もしさを感じました。目指す自分の姿はそれぞれですが、学びの森では、子供が楽しいと思う授業をつくるため、先生方の成長をこれからも応援していきます。



市指定研究発表会（富二小）

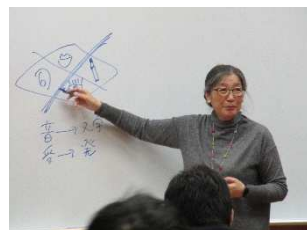


19日（火）、「関わり合いの中で主体的に学ぶ子～学びをたのしむ～」を研究主題に、市指定研究発表会がありました。「校内研修つなげるシート」を活用し、静岡大学の坂口京子先生に年に2回授業を見ていただき、指導を受けてきました。

公開された6年生小宮山昌子教諭の授業では、意見を伝え合う生き生きとした子供の姿がみられました。

第3回外国語教育授業研修会（向田小）

22日（金）、東京学芸大学の粕谷恭子教授の模擬授業を参観後、「小学校外国語活動と外国語科の授業づくり」の講演に臨みました。模擬授業は、「子供が使うことを通して主体的に学ぶ事ができる」ということを体現したものでした。参観後の講演では、算数や他の授業同様に、単元目標を明確にすることや、言語活動は手段で、始めから文法を使って音声に慣れ親しんだものについて、必ず文字になることを授業の振り返りで確認しました。



夜カフェ参加募集のお知らせ

毎年好評の「夜カフェ」を12/18（水）に開催します。参加申込書は「学びの森だより 第11号 夜カフェ臨時増刊号」に掲載しています。

お誘い合わせて、ぜひご参加ください。

編集・発行：「学びの森」

〒410-1102

裾野市深良 435 番地

TEL：055-995-4903

FAX：055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/2240002>